



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ  
**東北こそだてレター (被災地の今…)**

2013/10/15 配信 vol.14

～東北こそだてプロジェクト活動写真展ご報告～

◆ 支援実績

<支援母子数>

※今月はお休みさせていただきます

<活動場所>

- ・岩手 (大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈)
- ・宮城 (石巻、東松島、女川、気仙沼、亶理、名取、仙台)
- ・福島 (いわき、相馬、南相馬)
- ・福島 (伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町)
- ・新潟 (長岡)
- ・埼玉 (川越)・神奈川 (横浜)・東京 (中野)

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビー体操／  
ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。  
一般社団法人ジェスペールです。

10月に入っても真夏日の日があるという何とも言えない天候で、衣替えをしてしまった後に慌てて夏物を戻した方もいらっしゃると思います。体調管理には要注意ですね。

さて先日、仙台の西友長町店で開催した「東北こそだてプロジェクト活動写真展」が無事に終了いたしました。

担当スタッフは一時期、夜を徹して作業に追われていましたが、その甲斐あって、被災地での母子支援が母子の笑顔に貢献している様子が伝わる良い機会となったと感じています。

10月2日のオープニングイベントには岩手・宮城・福島

から助産師等が大集合しました。母子支援に力を注ぐ方々の集合写真は壮観の一言です。  
(この写真はジェスペールのホームページに掲載されています。ぜひご覧ください)

合同会社西友様、写真展開催に向けご協力頂きました関係者の皆様、無料育児相談をご担当くださった MIJO の皆様、そしてご来店頂きましたお客様、心より感謝申し上げます。

さて今月のメルマガは、通常とは形を変え、この写真展のご報告をさせていただきます。  
オープニングイベントの講演会の中から、代表の宗とベビースマイル石巻の荒木裕美代表の講演要旨をご覧ください。  
被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ 東北こそだてプロジェクト活動写真展ご報告

一般社団法人ジェスペールは、昨年7月から1年間の活動について西友仙台長町店で10月2日から8日までの写真展を通し報告しました。

2012年7月1日(日)より、東日本大震災(以下名称「震災」)で被災した岩手県・宮城県・福島県・新潟県等在住の妊産婦による子育てを支援する「東北こそだてプロジェクト(以下名称「当プロジェクト」)」を実施しています。当プロジェクトは、主に合同会社西友様(以下名称「西友」)の、助成金とレジスターでの募金の2つの支援を得て実施しています。

この報告会では、2013年も引き続きご支援を頂くことが決定したことと、今までの活動を被災地の写真を展示し、皆様にご報告しました。

同時に会期中は無料育児相談も実施しました。相談を受ける助産師は、みやぎげんき助産師チームMIJOのメンバーがローテーションで態勢を組み、7日間で計77組の母子にご利用いただきました。

なお、開催日初日の10月2日にはオープニングイベントの講演会「産後女性を大切に作る社会とは」を行いました。

講演会では、まず西友執行役員の金山様よりご挨拶と今年度の助成金継続支給のご報告をいただきました。続けて当団体の代表 宗祥子、被災地で中心的に活動している大船渡こそだてシップの伊藤代表とベビースマイル石巻の荒木代表、およびこの活動を見守り産後ケアの大切さを提唱している《産前産後ケア推進協会理事》福島富士子氏が講演いたしました。

今回は、講演の中から代表の宗とベビースマイル石巻の荒木代表の講演要旨をご報告します。福島富士子氏の講演内容につきましては後日お知らせします。

◆ 被災地から ～写真展オープニングイベント講演会から～  
(社) ジェスペール代表 宗祥子 被災地における産後母子支援「母子支援が真の復興を支える」

ジェスペールは企業、行政、一般の方々に対して情報発信し、ファンドレイジングを行い関連団体との連携を取ることで、各被災地で個別に活動していた助産師をつなげ被災者の支援を拡大してきました。

妊産婦の支援はどんな災害でも最も遅れると言われています。妊婦は動けるために自分も救済されることを後回しにしてしまうからです。しかし妊婦は一人に見えても実はお腹の中にもう一人の命が宿っているのです。胎児がお腹の中で大きなストレスを受けると早産や体重の小さな子どもが生まれ将来のトラブルにつながります。

実際、東日本大震災の後、早産や低出生体重児が3割ほど増加したという統計が出ています。胎児の健康状態が悪かったためにこのような結果が出ているのです。また子育て中のお母さんたちに大きなストレスが起こると、子どもに愛情を向けることが難しくなります。ネグレクトや育児放棄、虐待にもつながる恐れがあります。

被災地で子育てをしているお母さんたちは、ご自分が元気であっても親しい親族や友人が亡くなっていたり、家が流されたりしている方がたくさんいらっしゃいます。お母さん自身に大きなストレスや悩みがあると子どもに目を向けることができなくなるのです。

震災から2年半たった今も復興はまだまだ程遠い状況にあります。

不便な仮設住宅で子育てをしたり、頼るべき実家や親せきが亡くなっている方がたくさんいらっしゃいます。

私たちジェスペールは、妊産婦や子育て中のお母さんたちに寄り添い支援を行う専門家である助産師たちのネットワークで成り立っています。まずお母さんたちに安心してもらうこと、悩みを聞いたり、解決のために手助けをすること、また仲間を作っていく手助けをすることが重要です。そのために各被災地では、ママサロンを開いたり巡回訪問をしています。

これから育って行く子どもたちが将来の被災地の復興の担い手になっていきます。その子どもたちを健やかに育て、また子育てしやすい環境を作り、今子育てをしているお母さん達が、また産みたいという環境を作ることが将来の復興を支えます。そして少子化に歯止めをかける大きな要因となるのです。

この活動の中心は西友からの助成金をはじめ多くの方の寄付金で成り立っています。

多くの方にこの活動の重要性を知っていただき今後ともジェスペールの活動にご支援を頂きますようお願いいたします。



◆ 被災地から ～写真展オープニングイベント講演会から～  
へビースマイル石巻 荒木裕美代表「被災地における産後母子支援」

震災では、多くの命が奪われました。親戚・友人、その中には出産間近の方もいました。命が奪われた悔しさと共に、自分がいま、命を産み増やすことが出来る当事者であると強く感じました。人間を復興させる原点のカギは、私達、産み増やす世代がにぎっているんだ！と。当時の私は、妊娠8か月で長男は2歳でした。

今と同じくらいのお腹でしたので、出産を控えてさらに「命」を強く感じたのかもしれない。(注：荒木さんは現在第3子を妊娠中です)



◆◆ 団体設立への契機

震災直後の混乱の中、乳幼児の物資が不足しました。届いてほしいところに届かない、そんな状況を見て、乳幼児の為にきちんとしたネットワークがないことを感じました。

また、震災時からの長男の様子を見て、「この子はこの状況をどう受け止めているのか。恐ろしい思いをした子ども達の心は大丈夫なんだろうか」と思いました。

震災で親子の集まりの場もなくなり、情報交換の場が不足していました。

ニュースでは、外部のNPOが石巻にたくさん入ってボランティア活動を展開していることを毎日伝えており、「遠くからたくさんの方が助けにきてくれている。

私が今、できることはなんだろうか。泥かきも、炊き出しも子連れの妊婦にはできない。

でも、同じ子育て中の方を集めて、物資を受け入れたり、子どもを広いところで遊ばせたり、不安や困っていることについて情報交換する「場」づくりならできる。」

そう思い立って動いたのが、団体設立への契機でした。

◆◆ 母親たちによる母親たちのためのイベントとサロン

活動は「親子の震災ケア」を目的として始めました。未就園児の親子は、社会の何かに属していない場合が多いので、とにかく情報が少なく、支援を受ける機会も子どもがいるからと遠慮してしまったり、社会から孤立しやすいことを実感しました。

そこで0歳～未就園児を対象として「心のケアセミナー」や「放射能セミナー」を開催しました。母親達は正しい知識を得て、不安を解消することができました。

すべて、子どもと一緒に、大変騒がしい中でしたが、子どもと一緒に参加して情報収集できるという垣根の低さで、たくさんの方が集い始めました。

また、母親自ら立ち上がることで、子育て家庭だけでなく、地域の心も動かし、みんなに応援してもらってここまで活動できてきたと感じています。



イベントやサロンなど、親子の居場所づくりをし、拠点がないので公民館など場所を借りながら、親子で体を動かしてストレス発散するイベントを中心として、参加する親子のネットワーキングに力を入れてきました。運営スタッフは全員、現地の現役子育て中の母親です。平常時にこのように母親同士でゆるやかなつながりを広げることで、緊急時に「私達、ここにいて困っています」と声をあげることができます。自分たちで発信していく強さの必要性を感じます。

◆◆ 行政や他団体との連携

行政や他団体との連携においては、イベントやサロンを通して、積極的に行政や産婦人科などの医療や地域との連携をはかってきました。顔の見える関係を作ることで、未就園児親子と社会がグッと接近するのを感じます。初めての子育てをサポートする0歳講座では市の保健師さん、栄養士さんと連携し、参加した母親からヒアリングした育児の悩みに答える場を作っています。

震災により産科が5か所から3か所に減ったため、安全なお産と産後ケアを、産科だけに頼らずセルフケアでカバーできるようにと、有志の助産師チームと子育て支援センターとの協働で「たまひよ」という妊婦～産後ママのサロンも行っています。ネットワーク作りで意識しているのは、産前から産後まで一貫してフォローしていくことです。途切れのない支援が、孤立を防ぐと思います。

### ◇◆母親としての立場から出来る事を

私たちは現役の母親であり、活動の幅にも限界があり、時間にも制限があります。

しかし、自分たちが暮らしやすい街を自分たちで創造していく、まちづくりに参画して、子育て支援の底上げをしていくためには、きっかけを増やして、どんどん協力者を増やすことが最大の近道であると感じています。

同時に当事者の母親たちと、きちんと繋がりを強めること。安心できるネットワークを築けた母親たちは、居場所をみつけ、支援の手を離れ、自分たちで新しく活動を始め、自然と自立していく姿が見られます。そして今度は地域の中のリーダーとして、新しいネットワークを作っていくことで、サポートできる親子も広がっていきます。

### ◇◆NPO 団体としてのベビースマイル石巻のこれから

NPO 団体の良いところは、良いと思ったことをスピーディーに実践できることだと思います。石巻行政では、従来の職務に震災対応が加わり支援の充実が困難な状態です。子育てへの予算も少なく、マンパワーも不足しているそうです。

しかし、震災により環境が激変した方々がたくさんいます。仮設住宅で子ども達の泣き声や騒ぎ声に、周りからの目を気にしながら暮らしている方々がたくさんいるのです。買ったばかりの家が流出したり、パートナーや子どもを失った方もいます。仮設住宅に入らず突然の同居を始め、ストレスを抱える方もいます。夫の職がなくなったり、変わったりして、夫婦仲が悪くなった家庭など、震災の爪痕は今もなお被災地での子育ての力を奪っています。健全な心身を保ち、孤立や虐待を行政・地域が全力を挙げて防がなくてはならない状況があります。



ベビースマイルの活動は、開始から一年は任意団体でしたが、二年目 NPO 法人を取得しました。それは、地域に根差した活動を展開することで、社会の中で私たちの存在を認識していただき、復興のまちづくりの仲間であると受け入れて頂きたい思いからです。

地域の中でやるべきことはたくさん見えてきました。実践を重ねながら、地域で支え合いながら、民間ならではのきめこまやかな支援を行っていきたいと思っております。

### ◆ 写真展メディア露出紹介

東北こそだてプロジェクト活動写真展が新聞とテレビに取り上げられました。その内容をご紹介します。

#### ◇◆宮城テレビ放送 10月2日 (ナレーション全文掲載)

[写真展全体の画像]

この写真展は宮城・岩手・福島の被災3県で助産師の活動を支援するジェスペールなどが開いたもので、およそ110枚の写真が展示されています。

[ベビースマイル石巻の写真画面]

こちらは石巻市で行われた母親が子どもと体を動かしたり、子育ての悩みを相談できるイベントを紹介したものです。被災地では、子育て中の母親を支援する場が不足しているとのことでした。

[宗代表画面]

「(母親が) 集まる場そのものが無くなっている中で、集まる場を提供してそこで助産師たちが中心となってお母さんたちの悩みを聞いたり・・・」

[写真展の写真パネル画面]

写真展は今月8日まで、太白区のザ・モール西友仙台長町典で開かれ、助産師による無料育児相談も行われています。

◇◆河北新報 10月4日 (全文掲載)

「被災の母子支援で孤立や虐待防ごう」仙台で講演会

東日本大震災の被災地の母子支援「東北こそだてプロジェクト」を紹介する講演会が2日、仙台市太白区のザ・モール仙台長町で開かれた。同店ではプロジェクトを紹介する写真展を8日まで開いている。入場無料。

プロジェクトを行う一般社団法人ジェスペール（東京、宗祥子代表）と助成する西友が主宰した。同法人は被災地の助産師らと連携し、育児相談や仮設住宅の巡回訪問などを実施。

昨年7月から延べ5000組以上の母子を支援した。

講演で、宗代表は「我慢を重ねた母親たちのストレスが、今になって出始めた」と継続的な支援の必要性を訴えた。プロジェクトに参加するNPO法人ベビースマイル石巻（石巻市）の荒木裕美代表は「母親のサロンを通して孤立や虐待を防ぎ、まちづくりにも声を上げたい」と述べた。



### ◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



**発行者：一般社団法人ジェスペール**

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>

Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：[info@tohokumama.org](mailto:info@tohokumama.org)

Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>